

KIZUNA レポート

第96期 中間期
2025年4月1日～9月30日

つなぐを
化学する



荒川化学工業株式会社



株主の皆様へ

代表取締役社長執行役員
高木信之

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第96期中間期の業績をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間連結会計期間の国内経済は、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続く一方で、世界経済は、一部の地域において足踏みがみられ、米国の通商政策等による景気の下振れリスク、中国における景気の減速、地政学リスクの高まりなどにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、最終年度を迎えた第5次中期5ヵ年経営実行計画「V-ACTION for sustainability」のもと、重点施策に取り組んでおります。「のばす」

第5次中期5ヵ年経営実行計画（2021～2025年度）

V-ACTION for sustainability

- Vector 方向・進路（サスティナビリティ）
- Value 値値（企業価値）
- Variety 変化・多様性（中計最終時の姿）
- Venture冒険的事業（みつける）
- Vitality 活力（働きがいと生産性の向上）

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

ミッションに位置付けた光硬化型樹脂およびファインケミカル製品においては、生産能力増強が完了し、需要増に向けた量産化を推進しております。また、ライフサイエンス分野（ヘルスケア、アグリ、コスメ）での事業化に向け、松や微細藻類などの天然素材を活かした新規事業の展開にも注力しております。水素化石油樹脂につきましては、千葉アルコン製造株式会社の安定稼働を重要な全社課題と認識し、「アルコン特別委員会」を中心に課題解決に向けた体制を強化したことにより、稼働率が改善しております。

業績面では、スマートフォンの出荷台数の回復により、機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂の販売は前年同期を上回り、ファインケミカル製品とハードディスク用精密研磨剤の販売は過去最高水準を維持しました。

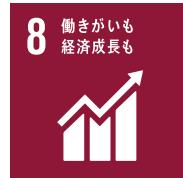
その結果、当中間連結会計期間の売上高は403億67百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は9億29百万円（同196.0%増）、経常利益は6億39百万円（同103.8%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は7億24百万円（同55.7%減）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

荒川化学グループが掲げるSDGs選定目標



4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



12 つくる責任
つかう責任



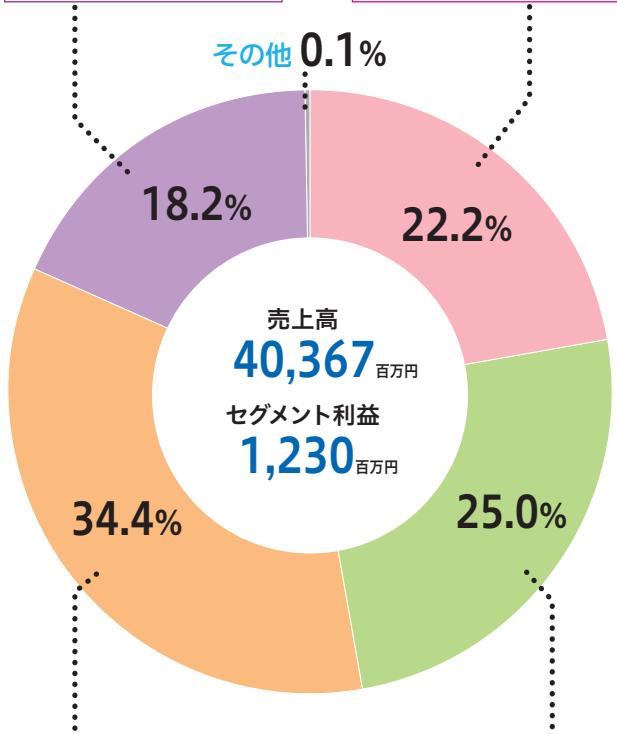
13 気候変動に
具体的な対策を



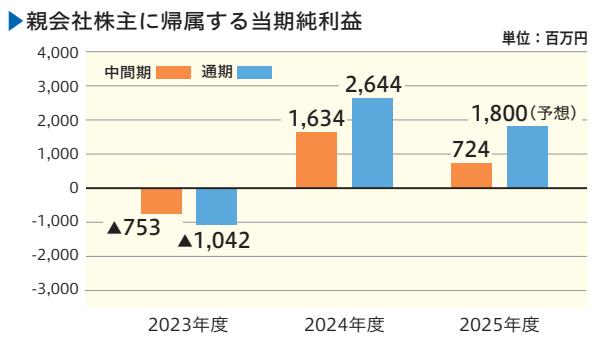
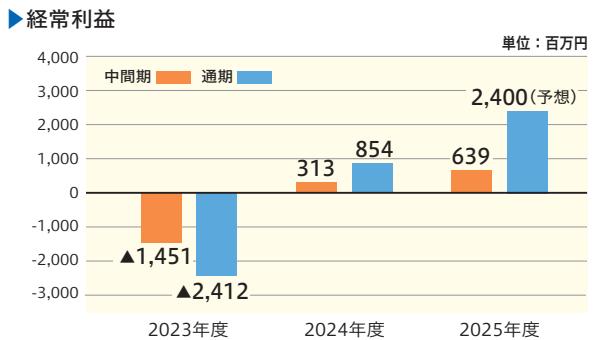
15 陸の豊かさも
守ろう

ファイン・エレクトロニクス事業
売上高：7,366百万円
セグメント利益：274百万円

機能性コーティング事業
売上高：8,977百万円
セグメント利益：1,008百万円



	前中間期	当中間期
売上高	39,327 百万円	40,367 百万円
営業利益	313 百万円	929 百万円
経常利益	313 百万円	639 百万円
親会社株主に帰属する中間純利益	1,634 百万円	724 百万円



その他 売上高：37百万円
セグメント利益：16百万円

KIZUNA指標の進捗

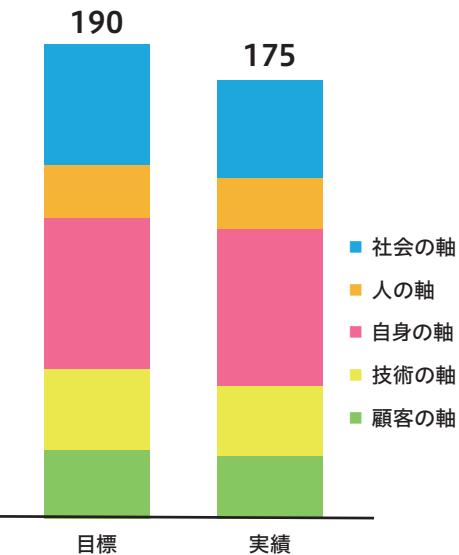
荒川化学グループでは、2021年度からスタートした第5次中期5カ年経営実行計画 **V-ACTION for sustainability**においてKIZUNA指標※を導入し、サステナビリティに対する各種取り組みの進捗状況のモニタリング・評価をサステナビリティ委員会でおこなっています。

2024年度の実績は、KIZUNA指標の目標190ポイントに対して達成率92%の175ポイントとなりました。

なお、KIZUNA指標のうちCO₂排出量削減およびサステナビリティ製品の連結売上高指標向上の2つの指標をサステナビリティ・リンク・ボンド(SLB)にも紐づけており、両指標の達成に向けて取り組みを強化し、最終年度目標の達成に近づいてきました。

5つのKIZUNA	各指標に関する進捗(ポイントの乖離)
【社会の軸】まもる	CO ₂ 排出量削減率は2015年度比55.2%となり、カーボンニュートラル都市ガスや再エネ電気の導入の拡大など2030年度目標を上回るベースを維持したものの、休業災害が発生し、計画から乖離がみられました。
【人の軸】関わりあう	バイオマス度換算販売量指数は前年比より回復しましたが、目標からは乖離した状態を継続中です。一方で海外駐在員の邦人指数は目標以上の水準で進捗し、海外売上高伸長率は順調に推移しています。
【自身の軸】主役になる	女性管理職人数は横ばいとなったものの、付加価値労働生産性や従業員満足度も業績回復にともない前年比から改善。男性育児休業取得率も60%水準を維持し、ミッションをSHIFTした数も計画以上に進捗しました。新たな社会貢献活動による加算もあり、順調に進捗しました。
【技術の軸】技術の伝承と革新	NEXT事業の創出として他の「みつける」からのミッション移行の遅れなどもありますが、サステナビリティ製品の連結売上高指標は2019年度比23%アップし、概ね計画通り進捗しました。
【顧客の軸】お客様と共に歩む	持続可能な調達率が伸び悩んでいますが、業績の回復に加え、品質クレーム件数の削減率は目標水準以下で概ね計画通り進捗しました。

課題を認識しながら、社員一人ひとりが意識を高め、自分ごと化してACTIONすることで個人の成長と会社の成長が連動し、**Well-being**となるように取り組んでおります。



2024年度

※ KIZUNA指標は、当社グループにとって優先的な重要課題から設定した「ありたい姿」を実現するための定量化した指標であり、5つのKIZUNAの軸に区分し、各指標に対する配分の重みや進捗によって独自のポイント換算によりモニタリングして管理しています。

TOPICS

EcoVadis社のサステナビリティ評価で「コミットメント・バッジ」を取得しました。

当社は世界最大級かつ最も信頼されるサステナビリティ評価機関の一つであるEcoVadis社による評価にて「コミットメント・バッジ」を取得しました。

EcoVadis社は世界各国で15万社以上に対してサステナビリティ評価を提供している評価機関です。「コミットメント・バッジ」は、「環境」「倫理」「労働と人権」「持続可能な資材調達」の4つのテーマに対し、スコア45点以上を獲得し、サステナビリティ改善への取り組みを着実に進めている企業に贈られるものです。

今後も当社は5つのKIZUNAの価値観、行動指針を基にサステナビリティへの取り組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



会社概要 (2025年9月末時点)

商 号	荒川化学工業株式会社
所 在 地	大阪市中央区平野町1丁目3番7号
代 表 者	代表取締役社長執行役員 高木 信之
創 業	明治9年(1876年)
会 社 設 立	昭和6年1月(1931年)
資 本 金	33億43百万円
従 業 員 数	1,690名(連結)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	電子公告
株主名簿管理人	
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 (お問い合わせ先)	大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。